

先日、山梨日日新聞に第17回小中学生新聞感想文コンクール最優秀賞作品が掲載されていた。何と感受性豊かで読者に訴えかけてくる迫力のある作品か。改めて学生は山梨の宝と感じた。

学生が進む未来への道には、無限の可能性が広がっている。安全な道を着実に歩む、新しい道を開拓する、まわり道をする、道を引き返す、いずれも学生の選択次第だ。

この秋、御嶽昇仙峡の紅葉の美しさに感動したが、

展望台

山梨からの道・

山梨への道

水野 裕史

険しい渓谷に誰が道を切り拓いたのか疑問だった。ロップウェイのガイドさんの説明を基に調べてみた。江戸時代に農民の長田田右衛門という方が、人馬が安心して通れるよう、荒川溪谷沿いの甲府と甲斐猪狩村間の道路(御岳新道)の開拓を大人はさきに高めようと計画し、約10年をかけて完成させたという。これに学生時代に山梨のさまざまな場所を訪れ、多くの職業人の話を聞いて、その魅力

を感じとってほしい。皆さんの情熱を突き動かす何かに触れられると思う。仮に、県外に出ても、すぐには故郷へ戻る道もあることを思い出してほしい。また、インターネットの道もあり、山梨から世界中に発信できる。

もちろん、どこで仕事をするかよりも、そこで何を成すかが重要だ。学生の皆さんには、どこにいても、長田さんのように、育った山梨・地域のためという気持ちでいつまでも大切に生きて人生を歩んでほしい。

(日鏡甲府支店員)